

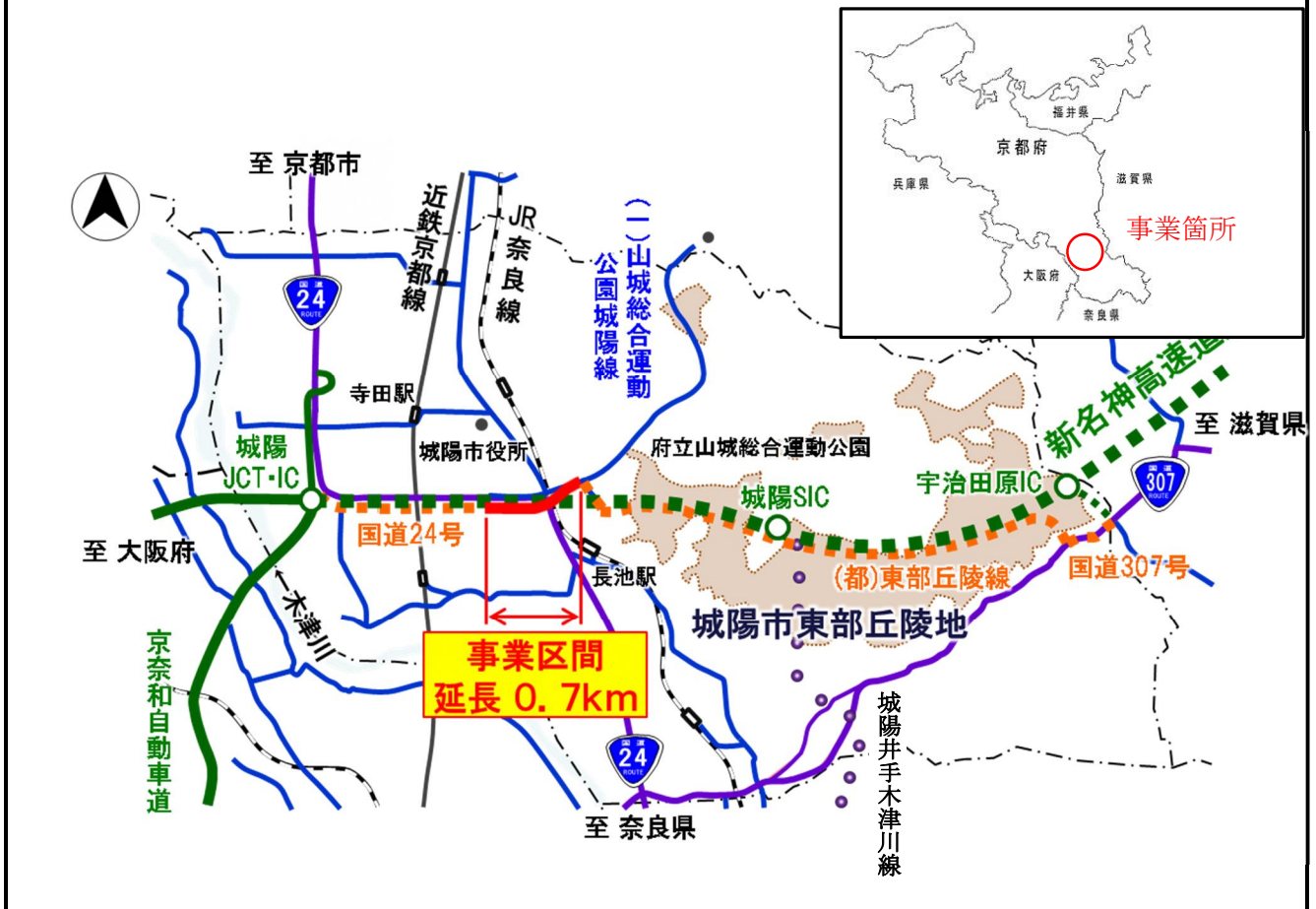
再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 環境安全・防災課

担当課長名:水野 宏治

事業名	高規格ICアクセス 一般府道山城総合運動公園城陽線(城陽橋)				事業区分	地方道	事業主体	京都府	
起終点	自: 京都府城陽市富野 至: 京都府城陽市富野						延長	0.7km	
事業概要									
一般府道山城総合運動公園城陽橋は、宇治市を起点とし、城陽市の国道24号に至る道路であり、新名神高速道路の城陽ICと城陽市東部丘陵地や宇治市市街地を結ぶ区間の一部を担う重要な路線である。 本事業は、企業立地の誘導等による地域振興、交通渋滞の緩和を目的に、4車線化を図るものである。									
H31年度事業化			H28年度都市計画決定		H31年度用地着手		H31年度工事着手		
全体事業費		約62億円		事業進捗率		約70 %		供用済延長	-km
計画交通量		23,300 台/日							
費用対効果分析	B/C	EIRR		総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年	
	(事業全体)	(事業全体)		8.9 / 62 億円		71 / 71 億円			
	1.2			(事業費: 8.4 / 61 億円)		(走行時間短縮便益: 70 / 70 億円)			
	対 1.7 [2%]	4.8 %		維持管理費: 0.48 / 0.48 億円		走行経費減少便益: 1.3 / 1.3 億円		令和6年	
	効果 2.2 [1%]			更新費: - / - 億円		交通事故減少便益: 0.21 / 0.21 億円			
(残事業)	(残事業)		感度分析		(残事業)				
	8.0			(事業全体)		(残事業)			
	(参考)	11.3 [2%]	32.6 %	交通量	B/C=1.0~1.3(±10%)		交通量	B/C=7.2~8.8(±10%)	
		13.8 [1%]		事業費	B/C=1.1~1.2(±10%)		事業費	B/C=7.3~8.8(±10%)	
		事業期間	B/C=1.2~1.2(±20%)		事業期間	B/C=8.0~8.0(±20%)			
事業の効果等									
○城陽市のまちづくりへの寄与 開発が計画されている東部丘陵地へのアクセス強化を図ることにより、城陽市のまちづくりに寄与									
○地域産業の振興や交流人口拡大を支援 新たな幹線道路ネットワークの構築による物流の効率化、企業誘致等による地域産業の振興に寄与									
○災害に対する安心・安全の確保 広域的な道路ネットワークとの連携が強化され、地域の交通寸断リスクが低減されるとともに、防災拠点間のアクセスを向上させ、地域の防災力が強化されることで、災害に対する安心・安全を確保									
関係する地方公共団体等の意見									
・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている ・「京都府山城地域振興計画」(R5年4月策定)の具体的施策の1つとして位置付けられている									
事業評価監視委員会の意見									
事業継続を妥当と認める。									
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等									
新名神が開通を目指して進む中、アウトレットモールや物流拠点など、周辺開発が進展しており、これらを結ぶ4車線道路軸を形成する本事業の必要性が高い。									
事業の進捗状況、残事業の内容等									
用地取得率100%、事業進捗率約70%									
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等									
橋梁上部工を推進し、供用に向け事業を推進していく									
施設の構造や工法の変更等									
残土について他の公共事業からの流用を行うなどコスト縮減に努める。									
対応方針		事業継続							
対応方針決定の理由		事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。							

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)